

保護者・地域と連携した働き方改革

【窓1】地域・保護者・外部人材等との協働・分担

教職員が自らのワーク・ライフ・バランスを確立し、心身ともに健康であることは、生き生きと子どもと向き合うための基盤です。そのために、地域・保護者と協働・分担しながら、教職員が子どもと向き合える教育環境を創っている取組を紹介します。



取組1 休み時間に地域の方とのふれ合いや見守り

学級担任にとって子どもの休み時間は、学級の子どもとふれ合う大切な時間でもあります。気になる子どもと何気ない話をしたり、時には学級全員で遊んだり、学級の支持的風土を育む大切な時間です。しかし、学級担任は子どもとの関係づくりを進めたいにもかかわらず、事故・トラブルの未然防止のために時間を使っているのが現状です。

そこで、地域の方々の協力を得ることで、教職員が子どもと向き合える時間を確保できた取組等を紹介します。

新津第三小学校の取組

学校運営協議会でも話題に取り上げ、週1回、地域ボランティアの方々が休み時間に校内を回り、子どもへの声掛けを中心としたふれ合い活動を継続しています。今では、ボランティアの姿を見掛けると、子どもから積極的に声を掛けたり、時には手紙を渡したりする様子が見られるようになりました。ふれ合い活動の後は、毎回、参加者が管理職と情報を交換し、子どもの様子を共有しています。



学校の声

担任が、休み時間になかなか声を掛けられない子どもとふれ合ってもらえることで、子どもの心の安定につながっています。

早通南小学校の構想

地域の方に子どもの様子や学校の活動をもっと知ってもらい、学校と協働する機会を設定したいと考えました。そこで、学校運営協議会で、休み時間に子どもの様子をボランティアに見守っていただけないかと話題に挙げました。賛同を得られ、今後、地域教育コーディネーターがボランティアを募集して、見守り活動の準備を進めていきます。



取組2 入学時における新1年生の支援



4月、新年度を迎えた子どもたちは新たな目標をもって、張り切って登校してきます。学級担任は、その子どもたちの気持ちに corres えるために、できる限りの準備や対応を行います。一年間の中で、特に多忙になる時期です。

入学時の1年生は、登校後、靴から道具を出したり、机の中に学習用具をしまったりします。また、給食時に配膳の仕方やマナーを覚えるなど、小学校生活に慣れるまでの支援が必要とされる場面が多くあります。これらを担任の先生が一人で対応することは困難です。そこで、地域や保護者の力を借りて担任の負担を軽減している学校の取組を紹介します。



東曾野木小学校の取組



地域のボランティアさんが入学したばかりの1年生の支援をしてくださっています。これは、スタートカリキュラムに位置付けられており、令和2年度から取り組んでいます。

朝、靴から道具を取り出す支援、トイレに行く支援などをしていただくことで、担任は子どもたちを出迎えることに専念できます。ボランティアさんは、朝から給食の準備まで、一日3~4名が約1ヵ月間対応してくださっています。

現在は、地域教育コーディネーターの呼び掛けで、ボランティアを募集しています。今後は、学校運営協議会でも取組のよさを伝えていき、多くの方からかかわっていただきたいと思っています。

1年生の安全を見守りながらふれ合うボランティアさん



学級担任の声

ボランティアさんが入ってくださるおかげで、子どもの様子を観察したり、提出物を確認したりする時間を確保できるようになりました。



級外職員の声

級外職員としてこれまで給食支援をしていましたが、ボランティアが入ってくれたため、他の業務や昼食時間に充てることができます。

小針小学校の取組

スタートカリキュラムの一環として、入学当初の約1ヵ月間、1年生の給食準備を保護者ボランティアに支援してもらっています。具体的には、配膳を行ってもらったり、一緒に給食を食べながら食事の様子を見守ってもらったりしています。その結果、安全に給食の準備を進めることができました。

学級担任は、学級全体を見渡す時間を生み出せて給食時のマナーやルールの徹底を図ることができました。



上記以外にも、保護者や地域と連携した取組によって教職員の働き方改革につながる事例がありましたら、学校人事課の区担当管理主事までお伝えください。